

## 感染症の予防のための情報提供について

病 名	腸管出血性大腸菌感染症 (O157)				
年齢及び性別	21才・女性	職 業	アルバイト		
住 所	鈴鹿市				
発病年月日	令和 2年10月23日				
診断年月日	令和 2年11月 2日				
(患者発生の経過)					
10月23日 発熱(38.7℃)がみられた。					
10月24日 解熱したものの、軟便、腹痛がみられた。					
10月27日 症状軽快せず水様便がみられたため、鈴鹿市内の診療所を受診した。					
11月 2日 10月27日の便検査から腸管出血性大腸菌感染症と診断された。 現在、患者に症状はありません。					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施(鈴鹿保健所)					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】(四日市市保健所分を含む)					
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
患者	29	29	32	29	20
保菌者	15	13	19	20	10
計(感染者)	44	42	51	49	30
※2020年1月1日～2020年11月2日現在まで本件含む					
2020年内訳 患者: O157(18人) O26(1人) O121(1人)					
保菌者: O157(6人) O128(1人) O146(1人) O91(1人)					
型不明(1人)					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱(菌を殺す)					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却(菌を増やさない)					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫(10℃以下)や冷凍庫(-15℃以下)に入れましょう。					
③ 清潔(菌をつけない)					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					